

対策計画名：熱海駅前交通渋滞解消に向けた面的受入環境整備促進事業（案）

申請主体：一般財団法人熱海観光局、対象地域：静岡県熱海市（中心部）

参考資料

現状・課題			
■観光客の動向 ・首都圏を中心とした国内観光客が多く、年間宿泊客数は320万人 ・客数はコロナ禍前の水準に回復しているが、インバウンド観光客は5.1%程度にとどまる			
	2023年	2024年	2025年
入込観光客数	5,515,520 (2,491,752)	6,273,274 (2,969,420)	7,842,086 (3,192,876)
国内（人） （宿泊客数）	5,234,229 (2,364,673)	5,953,337 (2,817,980)	7,444,813 (3,030,039)
インバウンド（人） （宿泊客数）	281,291 (127,079)	319,337 (151,440)	349,345 (165,590)

※出典：「令和7年版熱海市の観光」等 / ※インバウンドの宿泊客数は、'23は総観光客数に対し5.1%として推定、'24-'25は速報値

■現状の分析・課題 ・坂や隘路の多い熱海市では移動手段が自動車に偏りやすく、特に駅前で渋滞が頻発 ・観光客の自家用車や宿泊施設の送迎車両が多く、慢性的に住民の移動が妨げられる			
現状・問題点			影響を受けている 主な対象
道路渋滞・混雑	・宿泊施設運行の送迎車両が駅前ロータリーに滞留、これが渋滞に繋がり、中心部での移動がままならない		住民 観光客
移動の不足	・路線バスは赤字路線を廃止／減便、鉄道も増便される予定が無く、観光や生活の移動が不便な状態が続く		住民 観光客

目指す姿・KGI

■目指す姿

駅前の混雑エリアから車両の滞留を分散させ、熱海中心部の交通渋滞を緩和させる

■KGI

熱海駅前ロータリーの交通渋滞に対する市民・観光客の、送迎実施時間帯の満足度

現状値：6.6%（2025年度熱海市民アンケートの中で、熱海市の観光繁忙期の駐車場や渋滞対策に対する「満足」「やや満足」を選んだ人の割合を合算）

目標値：9.4%（熱海駅前の送迎実施時間帯における交通渋滞に対する市民・観光客向けアンケートで「満足」「やや満足」を選んだ人の割合を合算予定）

KGIの設定理由：

熱海駅前を利用する市民・観光客が渋滞緩和を“体感できること”が本質的に重要である為

KGIの測定方法：

市民・観光客に対する紙面・web等によるアンケート調査

過年度の取組概要

2025年度：駅前周辺混雑緩和と観光客の回遊性向上事業

熱海駅前広場の混雑及び周辺道路の渋滞、荷物を持つ観光客の移動による公共交通機関及び歩道混雑を問題として、駅前での現地調査、人流データによる定量分析、webアンケート調査等を実施。その結果、熱海駅に対し隣駅の来宮の人流はピーク時でも1/10程度であること、駅前ロータリーを通行する車両は観光客のものが5割、住民3割、宿泊施設2割で、交通渋滞の主要な要因は観光客の自家用車であることが判明した。これを踏まえ、ある程度のコントロールが可能と思われる宿泊施設の送迎車両削減と偏在する人流の平準化をめざし、既存交通を活用した本事業への取組みが必要との結論に至った。

実施体制

凡例：申請主体 申請主体の実施内容 申請主体 個別企業 黒字 申請主体の実施内容 赤字 個別企業の実施内容

申請主体・補助対象事業者 一般財団法人熱海観光局

業務委託（宿泊認証、バスロケシステム等の開発・運用） システム開発会社（選定中）

業務委託（事業検討、問い合わせ対応、広報活動など） 運行補助

運行主体

営業自動車組合 熱海温泉ホテル旅館協同組合連合会

連携

協力

運行委託 タクシー会社 バス会社

車両運行

車両借り上げ TAXI

宿泊施設

車両駐停車スペース提供

運行委託（事業検討、問い合わせ対応、広報活動など）

ユーザー対応

ユーザー

サービス提供（送迎）

（チケット発行・バスロケシステム等）

サービス提供

対策計画名：熱海駅前交通渋滞解消に向けた面的受入環境整備促進事業

申請主体：一般財団法人熱海観光局、対象地域：静岡県 熱海市（中心部）

事業実施地域・エリア

※地図、観光案内図などを添付し、事業を実施するスポット・エリアについて、明記するようにしてください。

※また、過度な混雑やマナー違反行為等の観光課題が確認される場所が分かるように明示していただく他、生じている課題について簡単に解説するようにしてください。

取組内容

熱海駅⇄来宮駅間の輸送

- 熱海駅に滞留している観光客を来宮駅に輸送
- 輸送手段にはジャンボタクシー等を用いる想定（JR在来線は30分に1本しか運行しないため）
- サービス対象者は熱海市内への宿泊者のみ（タクシー会社やバス会社の利益保護のため）

備考：

- 熱海駅からは路線バスが発着しているが、市内有数の観光スポットである駅前商店街がバスロータリーの真反対に位置しているために、観光客の視線がバスロータリーに向かいにくく、また動線上にもないため、一度に多く人数を輸送できるバス利用が促されず小型車両利用のインセンティブとなっていると推察される
- 一方で一般車ロータリーは駅の真正面に位置し、商店街にも近く視覚的にも分かりやすいことから観光客の利用を誘うため、観光客の自家用車や宿泊施設の送迎車両が集まりやすく、必然的にロータリー進入車両が増え続ける構造となっている
- そこで①では、“宿泊施設の送迎車両をジャンボタクシー等に置き換え、宿の送迎よりも多くの観光客を輸送することで、車両と人の滞留を解消しやすいのではないか”との仮説に基づきサービス設計した（本質的な改善には観光客の自家用車の進入量削減がもっとも効果的であるが、駐車スペースや資金等の条件から本対策計画を企画している）
- ②について、宿泊施設がそれぞれ送迎バスを出しているが、時間帯によっては利用率が低くなっている。そこで、近接する宿泊施設が送迎バスを共同化することにより効率的な運行を行うとともに送迎車両の数を減らすことを企図している



取組内容

熱海駅⇄熱海市街地南部間の輸送（→共同化）

- 熱海駅に滞留する観光客を熱海市街地南部の宿泊施設が多数営業しているエリアへ輸送
- 送迎バスを共同化することで、交通渋滞が頻発しているエリアへの進入車両数を減らす
- 輸送手段には宿泊施設が運行する既存の送迎車両を用いる想定